

## 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(△05)

**目的** 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

**成果** 1. 韓国との交流事業では、韓国文化財庁国立無形遺産院との研究交流の一環として、2017(平成29)年10月24日～11月10日の間、国立無形遺産院の林采石研究員を受け入れ、日本所在の韓国無形文化遺産関連資料に関する共同調査を実施した。調査は主に東京文化財研究所・東京藝術大学・国会図書館の所蔵資料を対象とし、特に植民地時代の朝鮮半島出身の美術工芸作家に関連した文献・カタログ等の調査を実施した。その成果は11月10日の成果発表会(於:本研究所)において発表された。



ユネスコ無形文化遺産保護条約第12回政府間委員会の様子

2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、ユネスコ無形文化遺産条約第12回政府間委員会(開催国韓国:2017(平成29)年12月4日～9日)に3名のスタッフ(石村・前原・二神)を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。特に日本国政府代表団の発言に際し、「無形文化遺産と防災」に関連した助言を行い、本研究所の研究成果の発信につながった。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第12号において「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。
3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)が実施する事業「アジア太平洋地域における無形文化遺産の防災」に協力し、同センター連携研究員の石村が2017(平成29)年9月23日～10月3日にかけてフィジー、2018(平成30)年1月24日～2月1日にかけてフィリピンにおける現地調査にそれぞれ参加した。

**論文**・Tomo Ishimura, Would inscription on UNESCO's List of Intangible Cultural Heritage contribute to the sustainability of intangible cultural heritage?: Cases of "Mibu no Hana Taue" and "Ojiya-chijimi, Echigo-jofu". *Proceedings of the International Symposium on Global Perspectives on Intangible Cultural Heritage: Local Communities, Researchers, States and UNESCO*, pp. 80-86. Center for Global Studies (CGC), Seijo University and International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI). 17.11

・Tomo Ishimura, Status of UNESCO Conventions related to cultural heritage protection in Oceania. *People and Culture in Oceania* 33: 73-86. 18.3

・二神葉子「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』12 pp.1-21 18.3

**発表**・Tomo Ishimura, Intangible cultural heritage and the protection system related to religion in Japan. *Symposium on Cultural Heritage and Religion in East Asia*. Academia Sinica, Taipei. 18.1.8-9

**研究組織** ○飯島満、久保田裕道、石村智、前原恵美、菊池理予、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)